國學院大學學報

平成26年 2月 第621号 定期号（毎月10日発行） 1部20円

発　行　国学院大学
編　集　総合企画部広報課
〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目
電　話　03（5466）0130
ＦＡＸ　03（5466）0528
kouho@kokugakuin.ac.jp
www.kokugakuin.ac.jp

「山凪ぎ」

村びとの若きは
村を行きへりて、
残雪（ハタレ）の峰の
空に澄みたる
（「水の上」）

釈　迢空

祭　儀

▽月次祭・祈年祭
3月1日(土)午前10時　神殿
▽卒業奉告祭
3月22日(土)午前10時　神殿

岡野名誉教授に有栖川宮記念賞

学校法人国学院大学は、昨年11月に文化功労者に選ばれた岡野弘彦本学名誉教授に対して（618号既報）、12月6日の理事会において学校法人国学院大学有栖川宮記念賞を贈ることを決定した。表彰式は、1月30日に行われた岡野弘彦先生の文化功労者受章を祝う会の中で行われた。

学校法人国学院大学有栖川宮記念賞は、本法人の関係者で、各分野、各方面において顕著な功績を認められたものに対し、顕彰することを目的として、平成19年に前身の学校法人国学院大学表彰が制定され、同年12月に、本表彰名について学校法人国学院大学有栖川宮記念賞とすることを宮内庁から許しを得て、規程の一部改正がなされた。

同賞は本法人が設置する学校の教職員、卒業生（在籍を含む）・在学生を対象として授与し、これまでの受賞者は6人を数える。今回、岡野名誉教授は、「学術、芸術、教育、スポーツ等における顕著な業績又は貢献」が認められ同賞が贈られた。

岡野名誉教授は、大正13年生まれ。折口信夫博士の指導を受け、昭和23年に国文科を卒業。本学教員として教壇に立つ傍ら、和歌の創作などにも精力的に取り組み、日本芸術院賞（平成10年）をはじめ受賞多数。宮内庁御用掛も務めた。

坂口理事長から表彰状を受け取る岡野名誉教授（左）

「師がもらうべき賞をいただき感謝」

1月30日午後5時から明治記念館で執り行われた岡野弘彦先生の文化功労者受章を祝う会は、学校法人国学院大学と、同氏が平成7年から19年まで短期大学の学長を務めた学校法人国学院大学栃木学園の主催で開かれ、両法人関係者、学友らが出席した。

木村好成学校法人国学院大学栃木学園理事長のあいさつの後、同賞の表彰が行われ、坂口吉一理事長から、表彰状と目録が岡野名誉教授に渡された。

続いてあいさつに立った岡野名誉教授は、師である折口信夫博士の学問に触れたことについて「本当は折口先生がもらうべき賞の一つをいただいたという思いがしている。そのことが何よりありがたく、うれしい」と思いを述べた。その後、坂口理事長の発声で乾杯となり、懇談に入った。

会食の合間には、岡野名誉教授と同期生の千勝三喜男氏（昭23卒・56期学部、国学院大学久我山中学高等学校元校長）と作家で本学客員教授の嵐山光三郎氏（昭40卒・73期文）が祝辞を述べた。千勝氏からは岡野名誉教授をはじめ学友とともに昭和18年に本学予科に入学し、戦時下で苦楽を共にした当時の思い出を、嵐山氏からは、岡野先生の師である折口信夫博士に関するエピソードなどが紹介された。お祝いの会は、赤井益久学長が中締めを行い、お開きとなった。

あいさつをする岡野名誉教授

第７回 成人加冠式

新成人を祝福

今年で7年目となる成人加冠式が、1月25日午後1時に渋谷キャンパス120周年記念2号館祭式教室で執り行われた。

同式は神道文化学部が主催、奈良・平安時代における最も重要な成人儀礼を再現し、今年度新たに成人の仲間入りをした在学生を対象に行われた。今年は、全学部から男子14人が、女子28人が参加した。

装束に身を包んだ新成人が入場し、典儀役の星野光樹神道文化学部助教による進行で式は始まった。

加冠の儀では、武田秀章神道文化学部副学部長・教授、嵐義人同学部教授、笹生衛同学部教授、野呂健文学部長・教授、尾近裕幸経済学部長・教授、坂本一登法学部教授がそれぞれ加冠役となり、男子には冠を、女子には釵子（さいし）を授けた。その後、武田副学部長による祝辞、新成人代表の答辞と続いた。

加冠の儀終了後、神殿で大学神殿報告の儀が執り行われ、再び祭式教室に戻った。移動途中に立ち寄った事務局では、居合わせた職員から祝福の言葉を贈られ、緊張のほぐれた学生からは笑みがこぼれた。

祭式教室では祝賀の儀が行われ、学生有志による管弦「越天楽」と「陪臚」、「長慶子」、祭祀舞「豊栄舞」、神前神楽舞「浦安の舞」＝写真＝が奏舞され、成人加冠式は無事終了した。

地方から上京し出席した保護者の一人は「わが子の晴れ姿を見にきました。全国で成人式は行われていますが、このような厳かな形の式は国学院でしかできないものだと思います。本人も一生の思い出になったのではないでしょうか」と、喜びを語った。

⇧写真にスマホをかざすと、「第７回 成人加冠式」の動画がご覧になれます

渋谷キャンパス体育館跡地
新施設の完成予想図を公開

学報618号でも紹介したとおり、現在、本学渋谷キャンパスでは第2次再開発として新施設の建設工事に着手している。このたび、そのひとつとなる体育館跡地に誕生する新施設の完成予想図（パース）が公開された。

同施設は従来の体育施設だけでなく、教室や学生が集えるロビーなどを有した地上3階地下1階の複合施設となる予定で、平成26年度中の竣功を目指し、建設作業が進められている。

次号学報の発送について

次号平成26年3月10日付第622号は、「卒業特集」となります。そのため若木育成会会員（本学在学生保護者）の方への発送は行いません。院友（本学卒業生）の購読者の方への発送と学内ラックでの配布のみとなりますのでご了承ください。

国学院大学広報課

スマホをかざすと学報が動く！ かざすンAR

ダウンロードと使い方

アプリをダウンロード（無料）

❶ iPhoneは「App Store」、Android端末は「Google Play」を開き「検索」をタップ。
❷ 検索窓に「かざすンAR」と入力し検索。
❸ 検索結果から「かざすンAR」を選択します。
❹ 《iPhone》「無料」ボタンを押すと「インストール」と表示され、インストールボタンをタップするとパスワード入力画面が表示されます。ご自分の「Apple ID」とパスワードを入力し「OK」ボタンを押すと、自動的にインストールされます。
《Android》「インストール」ボタンをタップするとダウンロードが始まり「インストール済み」と表示されると完了です。
❺ 位置情報を利用しますか？と表示されるので「OK」ボタンを押します。数秒立ってカメラモードになり、画像を読み取れるようになります。

ご利用端末について

◇iOS 4 以上を搭載したiPhone、iPadおよびAndroid OS2.2以上を搭載したAndroidに対応しています（一部対応していない端末もあります）。
◇ダウンロードは無料ですが、通信に費用がかかる場合があります。
◇通信環境によって、写真にかざした後、コンテンツが再生されるまで時間がかかる場合があります。

QRコードを読み込める機種では右のQRコードからかざすンARの無料アプリを入手できます。

左のマークが付いた写真などにスマホをかざしてみましょう

みはるかすもの

2月に入り、ロシアのソチ開催の冬季オリンピックの盛況が伝わってきた。冬季スポーツが日常的な欧州には及ばないものの、アジア初の男子フィギュアスケート金メダルの羽生結弦選手や、不惑を越えた葛西紀明選手の個人ラージヒルでの銀メダルは、日本人に勇気を与えた▼国際バレエの登竜門である2月1日の第42回ローザンヌ国際バレエコンクール最終選考における二山治雄さんの1位、前田紗江さんの2位も快挙だ。日本人のスポーツや文化芸術が、世界で評価された証でもある▼世界レベルの舞台で、本人の力量を遺憾なく発揮できるか。日々の練習の成果故、実力があっても会場で力量を出し切れるか、さまざまな要素を打開し勝ち得る結果である▼宮沢賢治作『十力の金剛石』では王子たちの前に宝石が降り注ぐ。ルビーやトパーズなどあまたの宝石の雨が降り注ぎ野原を埋め尽くすが、それより勝る十力の金剛石は自然そのものである。それに触れた王子たちはひざまずき自然に敬意を表す。真の美は、目の前に存在する▼世界的舞台での評価は誰もが認める業績であるが、実は目の前、足元にある真価に気付かないで通り過ぎてはいないか。埋もれた宝石たちの瞬きに目をそらしていないか▼輝かしい結果もあれば、日々身近にあり埋没しがちな実績もある。大舞台ばかりではなく、小さな喜びも享受したい。

平成25年度 補正予算

学校法人全体

平成25年度学校法人国学院大学補正予算は、1月30日開催の理事会・評議員会で承認・成立しました。

◆資金収支補正予算概況（表1）

資金収支補正予算は、会計年度中のすべての収入及び支出の内容と支払資金の顛末を明らかにすることを目的としています。

補正予算総額は374億8900万円で、当初予算額に比して27億1００万円の増額となっています。当初予算額に対する増減の主なものとしては、収入面では学生生徒等納付金収入で1億2100万円、補助金収入で1100万円、資産運用収入で5億8００万円、資産売却収入で5００万円、雑収入で9６００万円、前受金収入で1億4６００万円、その他の収入で3億7２００万円等が増額補正となりました。

支出面では、施設関係支出で9０００万円、設備関係支出で4３００万円、資産運用支出で20億1２００万円等が増額補正となり、人件費支出で1８００万円、教育研究経費支出で1億7７００万円等が減額補正となりました。

◆消費収支補正予算概況（表2）

消費収支補正予算は当該会計年度中の消費収入及び消費支出の内容を明らかにし、収支の均衡が保たれているか否かを測定、表示することを目的としています。

財政の運営状況を示す当補正予算において、当年度消費収支差額は法人全体で11億1５００万円の支出超過となっています。これは主に国学院大学の12億3０万円、国学院高等学校の４７００万円、久我山高等学校の５４００万円の支出超過によるものです。

前項の結果として、前年度繰越消費収入超過額に当年度消費収支差額を加減すると、翌年度に繰り越される消費収入超過額は7億3３００万円となります。

国学院大学補正予算

◆資金収支補正予算概況（表3）

国学院大学の資金収支補正予算の規模は、１８９億2９００万円で、予算からの主な増減は次のとおりです。

収入の部については、学生生徒等納付金収入１０４億円は、当初予算額に比して1億4２００万円の増額補正となりました。寄付金収入2億5０００万円は、当初予算額に比して1５００万円の減額補正となりました。これは一般寄付金収入の減収を見込んだことによります。資産運用収入６億4５００万円は、当初予算額に比して4億6４００万円の増額補正となりました。これは主として受取利息配当金収入での増収を見込んだことによります。資産売却収入5０００万円は、当初予算額に比して7６００万円の増額補正となりました。これは退職金財団交付金収入の増収を見込んだことによります。

支出の部については、人件費支出のうち教職員人件費58億7９００万円は、当初予算額に比して1億4７００万円、教育研究経費支出27億9２００万円は、当初予算額に比して2億4６００万円の減額補正となりました。これは主として支払修繕費支出で7９００万円等が増額補正となったものの、施設解体費支出で1億6０００万円等が減額補正となったことによります。管理経費支出7億6００万円は、当初予算額に比して1３００万円の増額補正となりました。これは主として消耗品費支出で1４００万円、広告費支出で1３００万円等が増額補正となり、光熱水費支出で2１００万円等が減額補正となったことによります。

施設関係支出15億5１００万円は当初予算額に比して1億2９００万円の増額補正となりました。これは主として建物支出で1億1１００万円等が増額補正となったことによります。

設備関係支出3億5００万円は当初予算額に比して5３００万円の増額補正となりました。これは主として教育研究用機器備品で3６００万円等が増額となったことによります。

資産運用支出26億1１００万円は当初予算額に比して20億円の増額補正となりました。これは退職給与引当特定資産への繰入支出で5億円、施設設備拡充引当特定資産への繰入支出で10億円が増額補正となったことによります。

借入金については、当初予算の通り収入が5億円、返済支出は6億9０００万円となります。この結果、借入金残高は実質1億9０００万円の減少となり、当年度末の借入金残高は9億4３００万円となります。

次年度繰越支払資金は33億9７００万円と算出され、前受金収入26億5６００万円に比して7億4１００万円程上回ることになります。

◆消費収支補正予算概況（表4）

消費収支補正予算において、当年度消費収支差額は、12億3００万円の消費支出超過額となります。

前年度繰越消費支出超過額に当年度繰越消費収支差額を加減すると、翌年度へ繰り越す消費収支差額は累積で67億2６００万円の支出超過額になると予想されます。

表1　**学校法人国学院大学 資金収支補正予算書**
平成25年4月1日から平成26年3月31日まで　(単位：円)

収入の部			
科目	補正予算	予算	増減
学生生徒等納付金収入	13,791,596,900	13,670,149,700	121,447,200
手数料収入	615,139,000	617,178,000	△ 2,039,000
寄付金収入	340,079,000	334,548,000	5,531,000
補助金収入	2,083,853,800	2,073,042,300	10,811,500
資産運用収入	888,160,000	379,660,000	508,500,000
資産売却収入	50,000,000	0	50,000,000
事業収入	145,900,000	140,340,000	5,560,000
雑収入	374,276,000	277,800,000	96,476,000
借入金等収入	656,600,000	656,600,000	0
前受金収入	3,159,170,000	3,013,030,000	146,140,000
その他の収入	1,001,401,633	629,361,930	372,039,703
資金収入調整勘定	△ 3,573,857,655	△ 3,384,520,000	△ 189,337,655
当年度収入合計	19,532,318,678	18,407,189,930	1,125,128,748
前年度繰越支払資金	17,956,669,884	16,380,542,965	1,576,126,919
収入の部合計	37,488,988,562	34,787,732,895	2,701,255,667

支出の部			
科目	補正予算	予算	増減
人件費支出	9,608,434,000	9,626,331,000	△ 17,897,000
教育研究経費支出	3,757,855,000	3,934,780,000	△ 176,925,000
管理経費支出	1,018,504,000	1,021,658,000	△ 3,154,000
借入金等利息支出	41,880,000	41,880,000	0
借入金等返済支出	911,400,000	911,400,000	0
施設関係支出	1,595,100,000	1,504,950,000	90,150,000
設備関係支出	398,400,000	355,240,000	43,160,000
資産運用支出	3,196,071,000	1,183,991,000	2,012,080,000
その他の支出	268,730,339	175,266,000	93,464,339
〔予備費〕	409,000,000	409,000,000	0
資金支出調整勘定	△ 227,204,016	△ 217,296,000	△ 9,908,016
当年度支出合計	20,978,170,323	18,947,200,000	2,030,970,323
次年度繰越支払資金	16,510,818,239	15,840,532,895	670,285,344
支出の部合計	37,488,988,562	34,787,732,895	2,701,255,667

表2　**学校法人国学院大学 消費収支補正予算書**
平成25年4月1日から平成26年3月31日まで　(単位：円)

消費収入の部			
科目	補正予算	予算	増減
学生生徒等納付金	13,791,596,900	13,670,149,700	121,447,200
手数料	615,139,000	617,178,000	△ 2,039,000
寄付金	355,183,000	349,598,000	5,585,000
補助金	2,083,853,800	2,073,042,300	10,811,500
資産運用収入	888,160,000	379,660,000	508,500,000
事業収入	145,900,000	140,340,000	5,560,000
雑収入	403,096,000	277,800,000	125,296,000
帰属収入合計	18,282,928,700	17,507,768,000	775,160,700
基本金組入額合計	△ 3,222,733,000	△ 2,300,700,000	△ 922,033,000
消費収入の部合計	15,060,195,700	15,207,068,000	△ 146,872,300

消費支出の部			
科目	補正予算	予算	増減
人件費	9,299,969,900	9,571,901,000	△ 271,931,100
教育研究経費	5,220,693,000	5,402,020,000	△ 181,327,000
管理経費	1,176,052,000	1,176,102,000	△ 50,000
借入金等利息	41,880,000	41,880,000	0
資産処分差額	27,377,000	27,165,000	212,000
〔予備費〕	409,000,000	409,000,000	0
消費支出の部合計	16,174,971,900	16,628,068,000	△ 453,096,100
当年度消費支出超過額	1,114,776,200	1,421,000,000	―――
前年度繰越消費収入超過額	1,848,110,532	△ 700,121,552	―――
基本金取崩額	0	0	―――
翌年度繰越消費収入超過額	733,334,332	△ 2,121,121,552	―――

表3　**国学院大学 資金収支補正予算書**
平成25年4月1日から平成26年3月31日まで　(単位：円)

収入の部			
科目	補正予算	予算	増減
学生生徒等納付金収入	10,399,680,000	10,257,090,000	142,590,000
手数料収入	519,100,000	519,000,000	100,000
寄付金収入	250,000,000	265,000,000	△ 15,000,000
補助金収入	701,000,000	701,000,000	0
資産運用収入	645,000,000	181,000,000	464,000,000
資産売却収入	50,000,000	0	50,000,000
事業収入	134,340,000	128,300,000	6,040,000
雑収入	196,400,000	120,000,000	76,400,000
借入金等収入	500,000,000	500,000,000	0
前受金収入	2,656,510,000	2,496,900,000	159,610,000
その他の収入	766,771,112	503,757,930	263,013,182
資金収入調整勘定	△ 2,905,427,155	△ 2,730,600,000	△ 174,827,155
当年度収入合計	13,913,373,957	12,941,447,930	971,926,027
前年度繰越支払資金	5,015,388,575	3,890,109,933	1,125,278,642
収入の部合計	18,928,762,532	16,831,557,863	2,097,204,669

支出の部			
科目	補正予算	予算	増減
人件費支出	6,219,060,000	6,248,780,000	△ 29,720,000
教育研究経費支出	2,791,960,000	3,037,710,000	△ 245,750,000
管理経費支出	706,240,000	693,240,000	13,000,000
借入金等利息支出	19,000,000	19,000,000	0
借入金等返済支出	690,000,000	690,000,000	0
施設関係支出	1,551,290,000	1,421,900,000	129,390,000
設備関係支出	350,580,000	297,010,000	53,570,000
資産運用支出	2,611,000,000	611,000,000	2,000,000,000
その他の支出	573,988,493	496,210,000	77,778,493
〔予備費〕	150,000,000	150,000,000	0
資金支出調整勘定	△ 131,871,758	△ 107,880,000	△ 23,991,758
当年度支出合計	15,531,246,735	13,556,970,000	1,974,276,735
次年度繰越支払資金	3,397,515,797	3,274,587,863	122,927,934
支出の部合計	18,928,762,532	16,831,557,863	2,097,204,669

表4　**国学院大学 消費収支補正予算書**
平成25年4月1日から平成26年3月31日まで　(単位：円)

消費収入の部			
科目	補正予算	予算	増減
学生生徒等納付金	10,399,680,000	10,257,090,000	142,590,000
手数料	519,100,000	519,000,000	100,000
寄付金	265,000,000	280,000,000	△ 15,000,000
補助金	701,000,000	701,000,000	0
資産運用収入	645,000,000	181,000,000	464,000,000
事業収入	134,340,000	128,300,000	6,040,000
雑収入	219,500,000	120,000,000	99,500,000
その他の収入	60,496,000	60,496,000	0
帰属収入合計	12,944,116,000	12,246,886,000	697,230,000
基本金組入額合計	△ 2,850,140,000	△ 1,883,000,000	△ 967,140,000
消費収入の部合計	10,093,976,000	10,363,886,000	△ 269,910,000

消費支出の部			
科目	補正予算	予算	増減
人件費	5,978,860,000	6,276,880,000	△ 298,020,000
教育研究経費	3,903,960,000	4,146,710,000	△ 242,750,000
管理経費	827,240,000	810,240,000	17,000,000
借入金等利息	19,000,000	19,000,000	0
資産処分差額	27,110,000	27,110,000	0
その他の支出	390,730,000	369,350,000	21,380,000
〔予備費〕	150,000,000	150,000,000	0
消費支出の部合計	11,296,900,000	11,799,290,000	△ 502,390,000
当年度消費支出超過額	1,202,924,000	1,435,404,000	―――
前年度繰越消費支出超過額	5,523,088,980	7,513,294,637	―――
翌年度繰越消費支出超過額	6,726,012,980	8,948,698,637	―――

消費税増税に伴う本学の対応
学費は据え置き

平成26年４月に消費税が５％から８％に上がることを受け、本学では、一部の出版物や講座などで価格を改定する。詳細は、別表のとおり。

なお、平成26年度学費は、据え置きとなる（６１８号既報）。

消費税増税に伴う本学の主な価格改定

項目	改定前	改定後
国学院雑誌(年間購読料・送料込み)	¥3,150	¥3,240
国学院雑誌・分冊(通常号)	¥200	¥210
国学院雑誌・分冊(特別号)	¥1,050	¥1,080
三嶋本日本書紀彰印	¥78,750	¥81,000
梧陰文庫影印	¥36,750	¥37,800
芳賀矢一選集(1・3、5・7巻)	¥2,625	¥2,700
芳賀矢一選集(4巻)	¥5,775	¥5,940
久我家文書(1,2巻)	¥15,750	¥16,200
久我家文書(3巻)	¥18,900	¥19,440
久我家文書(4巻)	¥21,000	¥21,600
久我家文書(別巻)	¥5,250	¥5,400
神職養成講習会「直階」受講料	¥105,000	¥108,000
神職養成講習会「権正階」受講料	¥136,500	¥140,400
神職養成講習会「正階」受講料	¥189,000	¥194,400
ビジネススキル養成 販売士２級講座	¥33,000	¥33,700
知財管理技能３級講座	¥22,000	¥22,500
簿記３級本科生講座	¥14,800	¥15,840
簿記２級講座	¥51,850	¥53,550
宅建取引主任者講座	¥84,000	¥86,400
ファイナンシャル・プランナー講座	¥13,500	¥13,860
初歩から始めるTOEIC講座	¥25,000	¥25,700
秘書検定対策講座	¥15,000	¥15,400

両キャンパスで総合防災訓練を実施

本学では、昨年12月に平成25年度総合防災訓練を実施した。

同訓練は、消防法施行規則第３条第10項および同施行規則第51条の８第３項、第４項ならびに本学危機管理規程第５条第３項および第12条第１号に基づき実施。近年実施した訓練の成果と、東日本大震災の経験を踏まえ、消火・避難誘導の実施や帰宅困難・学内滞留者の発生を前提として計画された。

たまプラーザキャンパスでは12月12日に訓練を実施した。第１部は午前11時55分から午後０時40分まで、キャンパス内に滞在していた学生・教職員約７００人が参加した。避難場所をグラウンドに設定し、参加者全員が避難。その後、対策本部をたまプラーザ事務課からグラウンドに移動し、避難者の確認が取れた時点で第１部は終了した。

引き続き第２部では、災害現場などにおいて治療・搬送の優先順位をつけ、負傷者を分類する「トリアージ」について保健室から説明があった。また簡易担架の組み立て方法など、緊急現場で必要な内容が紹介された。

渋谷キャンパスでは12月13日に学生・教職員約８００人が、授業中の大規模地震発生に伴い、帰宅困難・学内滞留者の発生および火災発生という想定で、発災当初からの体制策定の流れを訓練した。

東京都防災会議の示す地震モデルに沿い、午前11時50分に東京湾北部震源の大規模な海溝型地震が発生したとの想定下、地震周知放送を行うとともに、若木タワー１階に震災対策本部を設置、職員が本部隊と地区隊に分かれて対応した。学内火災に対する消火活動、さらに交通機関の運行停止に伴う学内滞留の実施、施設設備の被害状況の確認や安否確認カードによる学生・教職員の在校状況の集計を行った。午後０時30分に首都圏近郊の鉄道の運行がほぼ復旧したことを確認、帰宅許可の放送を流し、訓練は終了した。

本学では今後も定期的に総合防災訓練を実施し、大震災への備えをより強固なものにしていく計画である。

参加者全員の避難完了＝たまプラーザキャンパス

震災対策本部では被害状況などを確認＝渋谷キャンパス

ハラスメント防止研修を実施

国学院大学は、ハラスメントに関する正しい知識を習得し理解を深め、これらを防止する一環として、対象者別に研修を実施した。

◆学生対象

DVのない社会を目指して活動する民間機関「アウェア」からデートDV防止プログラム認定ファシリテーターの吉祥眞佐緒氏と宗像美由氏（宗像氏は渋谷のみ）を講師に招き、「デートDVってなに？」という内容で、渋谷キャンパスでは昨年10月22日午後２時30分から１２０周年記念２号館２２０３教室で、たまプラーザキャンパスでは11月28日午後２時50分から１号館１０４教室で行った。

DVとはドメスティックバイオレンスの略で、体への暴力だけでなく、言葉や強い束縛などで親密な相手を思い通りに動かそうとする行為であることや、20代女性の５人に１人が被害者になっているデータがあるほど身近な問題であり、メールや電話の強要も、その一つであるなどDVに関する基本認識を得た。

ロールプレイを組み入れながら、DVの要因である「力の支配」「暴力容認」「ジェンダー・バイアス」「ゆがんだ恋愛観」を気づかせ、自分らしさと相手を尊重することが大切と述べ、研修は終了した。

◆教員対象

協田直子21世紀職業財団特任講師から「キャンパス・ハラスメントを防ぐために」をテーマに、渋谷キャンパスでは９月25日午後３時30分から若木タワー会議室02で、たまプラーザキャンパスでは９月５日午後２時から１号館会議室２で行った。

通常の組織より力関係が強く働くことが多い大学という場で起こりうる事例を、セクシャルハラスメント・アカデミックハラスメント・パワーハラスメントの３つに分けて解説した。

「キャンパス・ハラスメントとは何か」ということについて、教職員・学生・保護者など関係者が共通理解をしておくことが、ハラスメント防止の第一歩であると述べられ、社会に対する大学としての対応についても考えさせられる内容であった。

身近にあるDVの具体例を聴く学生たち

◆職員対象

12月27日午前９時20分から学術メディアセンター常磐松ホールで、「キャンパス・ハラスメント防止」について、21世紀職業財団エリア講師の真下りか氏が講演した。

職場としての問題から、学生の変化や教員との関係性など、複雑に絡み合う現状への対応の難しさを認識し、相談対応することなどが述べられた。

◆一人で悩まず、相談を

国学院大学では、ハラスメントのないキャンパスにするために、規程やガイドラインの制定、相談窓口の設置など体制を整えています。各種ハラスメントは、一人で悩まず、大学のハラスメント相談窓口などにご相談ください（秘密は守られます）。

特別展「日本信仰の源流とキリスト教」を開催

本学博物館では、１月７日から２月28日（金）まで西南学院大学との共催で特別展「日本信仰の源流とキリスト教」を開催している。

特別展の様子

同展は、平成23年度に西南学院大学博物館が採択された学内GP「大学博物館における高度専門学芸員養成事業」の成果の一部として企画されたもので、同展示は昨年11月１日から12月21日まで西南学院大学博物館でも実施された。

本学からは、日本の信仰の源流である遮光器土偶・三角縁神獣鏡など原始・古代の祭祀遺物や、北野天神縁起など神道関係の資料を出陳。西南学院大学からは中世以降のマリア観音像、キリシタン魔鏡、潜伏吉利支丹ころび連記血判書などのキリスト教関係の資料などを出陳し、日本の信仰史における、日本古来の原始宗教と近世日本に伝来してきたキリスト教の流れを体感できるものとなった。

安高学芸員による講演

また西南学院大学博物館の安高啓明学芸員が来校し、１月24日にミュージアムトーク、１月25日に学術メディアセンター常磐松ホールで講演会「日本宗教史のなかのキリスト教―伝来から近代教育まで―」が行われた。約１００人が参加した講演では、日本宗教史の中でのキリスト教史に焦点を当て、フランシスコ・ザビエルからはじまるキリスト教伝来、禁教下での日本の政策・対応、そしてキリスト教解禁へと、近世・近代における日本のキリスト教対応について、特別展の資料紹介を交えながら説明された。

なお西南学院大学博物館での展示の際は、本学の深澤太郎研究開発推進機構助教が「神道の成立と外来文化」と題し、西南学院大学博物館で講演を行っている。

税理士試験

本学大学院修了者2人が合格

今年度の税理士試験で、本学大学院経済学研究科博士課程（前期）修了者の山本里美氏（平22修・119期博前経）と桑原翔氏（平23修・120期博前経）が合格し、税理士としての一歩を踏み出すこととなった。

税理士試験に合格した山本氏（右）と桑原氏

１月25日には渋谷キャンパス学術メディアセンターカフェラウンジ「若木が丘」で合格者祝賀会が開催され、２人を祝うため多くの教員や先輩税理士の卒業生、後輩の大学院生が集まった。

冒頭、菅井益郎大学院経済学研究科委員長・経済学部教授があいさつし、祝福の言葉が贈られた。続いて経済学部を代表し尾近裕幸経済学部長・教授があいさつ、秦信行入学担当理事・経済学部教授の発声で乾杯した。

会の途中では、合格した２人がお礼の言葉を述べた。山本氏からは「卒業してからも、先生の〝念ずれば思いは通じる〟の言葉を胸に頑張ってきました。これからも覚悟を決めて頑張ります」と、指導にあたった小宮山隆経済学部教授へ感謝の気持ちを伝えた。そして桑原氏からは「このたび、晴れて合格することができたが、先輩税理士の方々と肩を並べて仕事するにはさらに勉強しなければならない。税理士としての社会的責任の重みを感じつつ頑張っていきたい」と今後の抱負が述べられ、出席者からは拍手が贈られた。

維持費（教育充実資金）寄付者芳名

国学院大学では、教育・研究について一層の充実をはかるため、平成25年度維持費（教育充実資金）のご協力をお願いいたしましたところ、22人の方よりご寄付をたまわりました。

11月号に引き続き、ここに芳名を掲載し、重ねて深甚の謝意を表します。

国学院大学

○茨城県▽竹村 賢三 殿
○栃木県▽織田 政利 殿
○埼玉県▽後藤 雅見 殿▽野口 繁 殿▽細矢めぐみ 殿▽山中 克朗 殿▽匿名
○千葉県▽星加 雄一郎 殿
○東京都▽池田 豊彦 殿▽岩波 康人 殿▽尾形 和彦 殿▽菊地 寿博 殿▽匿名（平成25年度合計２４９人）▽黒田 正義 殿▽藤村 彰 殿▽山本 陽一 殿
○神奈川県▽塚原 博 殿▽長谷川 万晃 殿
○山梨県▽宮下 由起男 殿
○和歌山県▽島 東穂 殿
○福岡県▽平田 忠 殿
○長崎県▽長岡 兵光 殿

「指定寄付金」にご協力のお願い

学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性のある教育研究体制を確立するため、広くご寄付を募っております。皆様方にはご理解とご協力をたまわりたくお願い申し上げます。

なお、本法人への指定寄付は、所得税減税などの税制優遇措置の対象となります。

寄付金の申し込みと納付が確認でき次第、本法人発行の領収書と文部科学省発行の証明書をお送りしますので、確定申告などの税務手続きを行ってください。

寄付金のお申し込みや手続きについてご不明な点があれば、担当課にお問い合わせください。

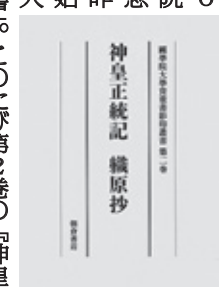
総務部総務課（寄付金担当）☎０３・５４６６・０１１１

各方面の方々からのご寄付に深く感謝申し上げます。

（総務部総務課）

「国学院大学貴重書影印叢書」第２巻刊行

本学創立１３０周年および大学院開設60周年を記念した事業として昨年度から刊行が始まった「国学院大学貴重書影印叢書」。このたび第２巻の『神皇正統記・職原抄』（本体１６０００円＋税）が刊行される。今回収録された『神皇正統記』は室町時代中期頃の写本で、重要文化財に指定されている。



同叢書は本学図書館が所蔵する貴重な資料を、多くの読者に手に取ってもらえるよう、使いやすい影印本として刊行するシリーズ。今後は、法制史関連史料、神道関連史料、日本史関連史料を刊行していく。

同叢書についての問い合わせは、朝倉書店（☎０３・３２６０・７６３１）。

平成26年度 オープンカレッジ 46講座 受講者募集

エクステンションセンター(エクステンション事業課)では、次年度も4月から「平成26年度国学院大学オープンカレッジ」を開講する。

渋谷キャンパスでは「物語文学の話型」、一般財団法人全日本冠婚葬祭互助協会・互助会保証株式会社共催「特別講座　豊かに生きる―人生儀礼の世界―」の新規2講座を開講。講義と実技を取り入れた書道講座も含め全40講座。たまプラーザキャンパスでは「琉球の文学と文化―柳田国男・折口信夫の琉球研究と琉球王府の宮廷歌謡集『おもろさうし』―」、「源氏物語講読 ―「若紫」「末摘花」の2帖を読む―」、本学人間開発学部の地域ヘルスプロモーションセンター企画「シニア世代を健やかに生きる」の3講座に新たな講師を迎え、全6講座を開講する。開講時期は、通年が4月から1月、前期が4月から7月、後期が9月から12月までの開講。講座内容など詳細は、オープンカレッジパンフレットをご参照いただきたい。

受講者募集要項概要

■入会条件＝年齢・性別・学歴問わず可。

■入会金＝(入会年度を含め4年間有効)▽一般＝5000円▽院友(本学卒業生)、若木育成会会員(在学生保護者など)、本学科目等履修生、他校学生・生徒＝3000円▽本学学生・本法人教職員＝無料。

■更新料＝▽3000円▽院友は2000円▽本学学生・本法人教職員は無料。

■会員特典＝▽毎年のオープンカレッジ、公開講座など本学主催各種講座(会員料金で受講可能な公開講座あり)の案内を無料送付▽本学図書館の閲覧利用。

■単位・終了＝「特別講座　豊かに生きる―人生儀礼の世界―」を除く各講座にはオープンカレッジ独自の単位を設定(基準は90分授業5回で1単位、10回で2単位)。累積単位が32単位となった時点で「国学院大学オープンカレッジ修了証」を授与する。なお、修了後も引き続き講座を受講できる。

■受講料等＝▽5回各講座1万円▽10回各講座2万円▽20回講座4万円▽テキスト代は受講料に含まれない▽別途教材費などを徴収する講座あり▽本学学生、若木育成会会員・本法人教職員、渋谷区・横浜市青葉区在住者、他校学生・生徒は半額。

■申込み方法等＝大学ホームページの専用フォームまたは、電話、FAXでパンフレットを請求し開講講座を確認、パンフレットに同封されている綴じ込みの「受講申込ハガキ」または「FAX用受講申込書」にて申し込みを。なお、FAX用受講申込書」は大学ホームページからもダウンロードできる。申し込み締め切り日はともに3月26日(水)。国学院大学エクステンションセンター(☎03・5466・0270／FAX03・5466・0528)

平成25年度の各奨学金給付者決まる

国学院大学の今年度各奨学金制度の採用状況は次のとおりであった(2月10日現在)。

◎国学院大学奨学金

本制度は勉学意欲があり、経済的理由で修学困難な学生を対象とし、学業成績と面接の総合評価により、年額30万円を前後期2分割で給付(ただし後期のみの採用者は15万円)されるもので、今年度の採用者は187人。

◎国学院大学留学生奨学金

本制度は、日本国の「留学ビザ」を取得している者で、勉学意欲があり、経済的理由で修学困難な留学生を対象とし、学業成績と面接の総合評価により、年額20万円を上限に給付されるもので、今年度の採用者は30人。

◎国学院大学入学試験成績優秀者育英制度

本制度は、入学試験上位者に奨学金を給付することで優秀な学生を育英するもの。一般入試A日程3教科型・得意科目重視型合格者の成績上位者に実質授業料相当額が給付される。今年度の採用者は4人。

◎国学院大学フレックス特別給付奨学金

本制度は、フレックスAコース(文学部日本文学科4年生・同史学科2年生以上・神道文化学部)の夜間授業時間帯(月曜日から金曜日までの5～7限と土曜日の1～7限)のみを履修する学生を対象とし、本学の教育方針を理解、勉学意欲があり、品行方正な学生に対し、書類選考と面接の評価により後期分学費相当額が給付されるもの。今年度の採用者は215人。

◎教育ローン利子補給制度

本制度は、本学入学の際および在学中に、家計支持者または本人が金融機関から教育ローンを受けた学部学生を対象とし、在学期間中に限り利子の一部を年額上限5万円まで給付するもので、応募書類により経済事情を考慮のうえ、採用者が決定される。今年度の採用者は12人。

◎特例給費奨学金制度

本制度は家計支持者や本人の経済事情が急変したことにより修学が困難となった学生を対象とし、応急的援助を行い、学業の継続を奨励するもので、応募書類と面接で審査され、上限50万円が給付される。出願は、発生日から6ヵ月以内に所定の願書に事由を記入のうえ必要証明書を添えて提出する。今年度の採用者はこれまで4人。

首都圏で記録的大雪

本学も対応に追われる

太平洋側を三陸沖へと北上した低気圧の影響で、2月8日未明から首都圏を中心に日本列島は、暴風を伴った雪に見舞われた。この雪は翌9日まで降り続き、都心では積雪量が27センチに達し45年ぶりとなる記録的な大雪となった。

8日は授業が行われていない土曜日ということもあり、キャンパス内は学生の姿はまばらであったものの、さまざまな催し物が実施される予定であったため、出勤した職員は朝から雪かきや情報収集などの対応に追われた。

前日から注意を促していた課外活動は、渋谷キャンパスが正午まで、たまプラーザキャンパスが午前11時までとなった。また、午前10時15分には東京都に、午前10時55分には神奈川県に大雪警報が発表され、今後の交通機関に乱れが予想されたことから、図書館やコンピュータ教室など各種施設は利用時間を短縮、合同企業説明会や公開学術研究集会、短期語学留学事前語学研修などの催し物は中止、もしくは時間短縮での開催となった。

正門前で雪かきする職員

春の叙勲　院友・和田氏にも

昨年4月29日付で内閣府から発令された春の叙勲で、新たに分った本学関係の受章者は次の通り。(2月10日現在)

◇瑞宝双光章(郵政事業功労)▽和田邦光(昭41卒・74期政経、元日本郵政公社職員(特定郵便局長))

第130回 神職養成講習会始まる

第130回神職養成講習会が2月5日から始まり、権正階43人、直階40人が受講している。同講習会は、神社本庁「階位検定講習会に関する規程」により、神社本庁に所属する神社の神職として任用される場合に、それぞれの基礎資格(学歴など)に従い、必要な資格を短期間に取得させる目的をもって開設している階位検定講習会である。

初日は、午前10時から神殿で開講奉告祭が執り行われ、受講生の代表が玉串を奉り、受講生全員で拝礼した。講習期間は、権正階が3月9日(日)まで、直階が3月6日(木)まで。

平成26年度　オープンカレッジ講座一覧 ＜先着順受付＞

講座No.	講座名	場所	講師	回数	時期	曜日	時間
01	神道を知る講座Ⅹ－古代の天皇と祭り－	渋谷	岡田　荘司	10	通年	水	10:30～12:00
02	『古事記』の世界　－下巻・雄略天皇記を読む－	渋谷	谷口　雅博	10	通年	土	10:30～12:00
03	万葉集の歴史14 －大伴家持と万葉集の終焉－	渋谷	辰巳　正明	10	通年	木	10:30～12:00
04	万葉考古学(Ⅻ)	渋谷	杉山　林継	10	通年	水	12:50～14:20
05	『源氏物語』 －目で見て学ぶ「藤袴・真木柱・梅枝巻」－	渋谷	秋澤　亙	20	通年	金	10:30～12:00
06	近現代における日中の文学の交流－日本の作家に見る漢詩文の素養と現代中国の作家と日本文学－	渋谷	渡邊　晴夫	10	通年	水	12:50～14:20
07	宇治拾遺物語を読む－歩くものたちの物語－9	渋谷	山岡　敬和	10	通年	火	14:30～16:00
08	中世小歌(続々)	渋谷	徳江　元正	10	通年	水	14:30～16:00
09	能と文学⑨　－古典文学から能へ－	渋谷	岩崎　雅彦	10	通年	水	10:30～12:00
10	平家物語を流布本で読む	渋谷	松尾　葦江	10	通年	水	12:50～14:20
11	物語文学の話型	渋谷	林田　孝和	10	通年	金	14:30～16:00
12	短歌を読む 詠む　－『万葉集』第5～6巻の鑑賞－	渋谷	豊島　秀範	10	通年	木	14:30～16:00
13	日々のことばを探る －自編著『難読語の由来』を読みながら－	渋谷	中村　幸弘	10	通年	月	14:30～16:00
14	美を夢みる詩人たち　－新しき詩歌の時代②－	渋谷	傳馬　義澄	10	前期	土	10:30～12:00
15	中国の神話・伝説　－中国古代の人々の心－	渋谷	松田　稔	10	後期	木	12:50～14:20
16	『論語』を読む　－朱子の注釈・日本人の解釈－	渋谷	石本　道明	10	通年	火	10:30～12:00
17	史料でたどる日本と東アジアの古代史(Ⅱ) －中央と辺境－	渋谷	佐藤　長門 他	10	通年	水	10:30～12:00
18	『金葉和歌集』を読む　－中世和歌の夜明け－	渋谷	スピアーズ,スコット	10	通年	火	10:30～12:00
19	伊勢物語「嵯峨本」を読む	渋谷	飯沼　清子	10	通年	水	14:30～16:00
20	折口信夫・釋迢空研究12　折口信夫を読み解く	渋谷	小川　直之	10	前期	土	12:50～16:00
21	沖縄の民俗と文化Ⅰ　世界のなかの沖縄文化	渋谷	渡邊　欣雄 他	10	後期	土	12:50～16:00
22	週末の『源氏物語』講座(帚木篇) －秋澤亙と四人の博士－	渋谷	秋澤　亙 他	10	通年	土	12:50～14:20
23	漢字(一)楷書 ＜初級・中級＞ －高貞碑の楷書を習う－	渋谷	小嶋　憲次	10	前期	月	14:30～16:00
24	漢字(二)楷書 ＜中級＞ －蘇東坡の楷書を習う－	渋谷	小嶋　憲次	10	後期	月	14:30～16:00
25	漢字(三)楷書 ＜初級・中級＞ －虞世南の「孔子廟堂碑」を習ふ－	渋谷	筒井　茂徳	10	前期	木	14:30～16:00
26	漢字(四)行書 ＜初級・中級＞ －藤原行成の「白氏詩巻」を習ふ－	渋谷	筒井　茂徳	10	後期	木	14:30～16:00
27	漢字(五)簡牘の古文字　郭店楚墓竹簡「語叢一」	渋谷	佐野　光一	10	前期	水	10:30～12:00
28	漢字(六)簡牘の古文字　漢代竹書「老子経」	渋谷	佐野　光一	10	後期	水	10:30～12:00
29	和様漢字(一)楷書・行書・草書＜初級・中級＞ －粘葉本和漢朗詠集の漢字を習う－	渋谷	石井　清和	10	前期	木	12:50～14:20
30	和様漢字(二)楷書・行書・草書＜初級・中級＞ －粘葉本和漢朗詠集の漢字を習う－	渋谷	石井　清和	10	後期	木	12:50～14:20
31	和様漢字(三)行書 ＜初級・中級＞　－空海－	渋谷	野村ひかり	10	前期	金	10:30～12:00
32	和様漢字(四)草書＜初級・中級＞　－空海－	渋谷	野村ひかり	10	後期	金	10:30～12:00
33	仮名の書(一)＜初級・中級＞ －美しい仮名を書きたい人のために－	渋谷	杉浦　妙子	10	前期	火	12:50～14:20
34	仮名の書(二)＜初級・中級＞ －美しい仮名を書きたい人のために－	渋谷	杉浦　妙子	10	後期	火	12:50～14:20
35	仮名(三)＜初級＞　－仮名書道の基礎の基礎－	渋谷	橋本　貴朗	10	前期	月	10:30～12:00
36	仮名(四)＜初級・中級＞　－高野切第三種－	渋谷	橋本　貴朗	10	後期	月	12:50～14:20
37	仮名 ＜中級＞『和漢朗詠集』とその古筆の研究 (3)	渋谷	髙城　弘一	10	前期	金	10:30～12:00
38	仮名 ＜中級＞『和漢朗詠集』とその古筆の研究 (4)	渋谷	髙城　弘一	10	後期	金	10:30～12:00
39	かなの鑑賞と実作 －山家心中集を学ぶ－	渋谷	名児耶　明	10	前期	月	12:50～14:20
40	オリンピックのヒーローたち	たまプラーザ	一　正孝	5	後期	火	10:45～12:15
41	古事記を読む　－景行記を逐一考説－	たまプラーザ	尾畑喜一郎	10	通年	木	10:45～12:15
42	琉球の文学と文化－柳田国男・折口信夫の琉球研究と琉球王府の宮廷歌謡集『おもろさうし』－	たまプラーザ	島村　幸一	10	前期	金	13:05～14:35
43	源氏物語講読　－「若紫」「末摘花」の2帖を読む－	たまプラーザ	林田　孝和	10	通年	金	14:50～16:20
44	松尾芭蕉の紀行文を読む　－『おくのほそ道』－	たまプラーザ	中村　正明	10	通年	金	14:50～16:20
45	シニア世代を健やかに生きる	たまプラーザ	林　貢一郎 他	5	後期	月	10:45～12:15
46	特別講座　豊かに生きる－人生儀礼の世界－	渋谷	石井　研士 他	5	通年	火	14:30～16:00

恒例の新年院友交歓会 開催

1月25日午後5時から国学院大学院友会恒例の新年院友交歓会が開催され、院友会館大ホールに約150人の院友（本学卒業生）らが集った。

会は、中里陽一同会総務部長の進行で、今井亮同会副会長が開会を宣言。引き続き参加者一同で国歌斉唱、吉田茂穂同会会長のあいさつ、赤井益久学長による来賓祝辞と続き、明治神宮寄贈の樽酒を、坂口吉一理事長、赤井学長、佐野睦仁若木育成会会長、吉田会長が鏡開きをし、坂口理事長の発声で乾杯、そのまま歓談となった。

遊吉師匠司会による福引大会

歓談が進む中、院友会がスポーツ振興基金を贈呈している本学の柔道部、陸上競技部、硬式野球部の強化3部会が紹介された。柔道部からは坂本大記監督、陸上競技部からは前田康弘監督と主将の湯川智史君（経営3）、主務の迫知軌君（日文3）、硬式野球部からは鳥山泰孝監督、主務の竹内岳君（経ネ3）と副務の伊東和貴君（健体2）が登壇してあいさつ。それぞれ近況や今後の目標などについて報告があり、会場からはそれぞれに温かい声援が贈られた。

会の終盤には落語家の三遊亭遊吉師匠（昭57卒・90期文2）の進行の下、恒例の院友や関係団体が協賛しての豪華な景品の福引大会が行われ、遊吉師匠の軽妙洒脱な司会に、会場は大いに盛り上がった。

最後は一同で国大小唄、校歌斉唱。また会場には全学応援団OBの山本富彦同会千葉県支部長（昭43卒・76期法）のリードとエールが、心地よく響いていた。針本正行同会副会長・本学副学長・文学部教授の閉会の言葉をもって、和やかな会は散会となった。

第24回 横浜市学校院友会 幅広い世代が交流

横浜市内の小中学校をはじめ教育機関に勤務している院友教員やそのOBら約400人で構成している横浜市学校院友会が、1月25日に横浜市内の飲食店で総会を開催した。

24回目となる今回の総会には、62期卒の院友から平成26年度横浜市教員に採用が決まった4年生まで幅広い世代約40人が参加し、本年度会計報告と次年度新役員案が承認された。

次期会長に決まった久保田あかね氏（昭54卒・87期文）は、新会長としての抱負を語るとともに教職を目指す在学生に向けた激励の言葉を贈った。続いて加藤季夫副学長・入間開発学部教授からは、本学の教員養成に対する取り組みと実績が紹介され、横浜市以外でも多くの院友が教員として活躍していることが報告された。

その後、懇親会へと進み、最後は全員で校歌斉唱をし、総会はお開きとなった。

リポジトリ説明会を開催

研究・教育活動において創作された学術成果を収集し、電子的形態によって蓄積・保存、インターネットを介して学内外に配信するシステム「機関リポジトリ」。このシステムの本格稼働に向けての説明会が、2月10日午後0時30分からたまプラーザキャンパス3号館3312会議室で、午後4時からは渋谷キャンパス学術メディアセンター常磐松ホールで行われた。

機関リポジトリ構築プロジェクト座長である紺井博則図書館長・経済学部教授から、来年度から本格稼働を予定している本学の機関リポジトリの概要説明、知的財産法を専門とする中山一郎法科大学院教授から「著作権法とリポジトリ」と題した講演があり、出席者へ理解を促した。

機関リポジトリに本学教職員ならびに学生が学術成果を登録することで、その内容は無償で配信される。また、登録された情報は、google などの検索エンジンから検索可能となり、世界中から入手できるようになる。

学術成果を積極的に学内外に提供することで、大学の社会的責任を果たすとともに、本学の研究・教育活動に対する評価、ひいては、本学のブランド力向上の一助となることが期待されている。

試験前に注意事項を伝える監督者（3教科型）

一般入試A日程を実施

2月2日から3日間の日程で渋谷・たまプラーザ両キャンパスと全国7都市（札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・広島・福岡）を会場にした一般入学試験A日程が実施された。2月2日実施の3教科型は5802人が、2月3日実施の得意科目重視型は3328人が、2月4日実施の2教科型は1387人がそれぞれ受験した。

2月4日の夕方から首都圏を中心に降雪があったものの、受験への影響はなく無事終了した。

なお、本学の一般入学試験は今後も2月21日（金）にB日程入学試験が、3月7日（金）にC日程入学試験が実施される予定だ。

新刊紹介

集客力を高める博物館展示論

青木　豊（本学教授）著

本書は、博物館学のなかでも博物館展示に特化した３冊目の単著で、著者にとっては博物館展示論の集大成といえる著であろう。「展示の概念」、「博物館展示史」、「集客力のある博物館の基本要素」、「集客力を高める博物館展示の具体」の４章から構成され、博物館展示は著者が提唱する“広義の展示”を基本要件とし、“驚きと発見”の連続による展示で見学者を魅了し、リピーターの誘引を図ることが重要とする。博物館の低迷ぶりはどうやら面白くないという一言に尽きるもので、閑古鳥すら居ないような利用者の少ない博物館は、生涯学習機関ではないと苦言を呈する。日本人の細やかな感性に合った知的欲求を満足させうる快適空間が求められ、それには“もてなしの心”と“奇をてらう心”が必要という。

著者が長年にわたり研究と実践してきた展示論と理想の博物館像、地道に調査した展示事例を基本として評価できる展示と改善が望まれる展示が網羅されている。まさに“驚きと発見”を体感しつつ一気に読破してしまう著であると同時に、本書を一読すれば博物館はどうあるべきか、博物館展示はどうするべきかが氷解の如く理解できる。

著者の大きな狙いは、養成学芸員の資質の向上と博物館学知識と意識を有した熱心な学芸員の採用の場を拡げることにある。現場の学芸員や館長および職員、博物館学養成に携わる大学教員に推奨する著書である。低迷している我が国の博物館界に大きな影響を与える著であることは間違いない。

（3800円＋税・雄山閣）

本学准教授　落合　知子

出版情報

◎**近藤昭一**（昭49卒・82期史2、横浜市立南高等学校長、横浜家庭裁判所委員）著『モバイル社会を生きる子どもたち　「ケータイ」世代の教育と子育て』時事通信出版局刊　2100円・『子どもの危機と学校組織　苦悩する学校を救う鍵は教師の生徒指導力向上とチーム力』教育出版刊　2100円

◎**鈴木史郎**（昭32卒・65期文）著『鈴木史郎句集　飛行船』鋭文社刊　1575円

◎**高塩博**（本学教授）著『近世刑罰制度論考―社会復帰をめざす自由刑』（国学院大学法学会叢書2）成文堂刊　5775円

◎**楠原彰**（本学名誉教授）著『学ぶ、向きあう、生きる　大学での「学びほぐし」―精神の地動説のほうへ』太郎次郎社エディタス刊　2100円

◎**石崎正明**（昭30卒・73期文）著『やまと言葉から宇宙へ（下）』美しい日本文化研究所刊　3150円

◎**千明守**（国学院大学栃木短期大学教授、本学兼任講師、昭56卒・89期文、昭58修・91期博前日文、昭61修・94期博後日文）著『平家物語屋代本とその周辺』おうふう刊　5750円

◎**松坂弘**（昭33卒・66期文、炸短歌会代表）著『安息は午後に』砂子屋書房刊　3150円

◎**新谷尚紀**（本学教授）著『お辞儀、胴上げ、拍手…の民俗学　日本人はなぜそうしてしまうのか』青春出版社刊　810円

◎**岡崎直也**（本学兼任講師、平元卒・97期文、平3修・99期博前日文、平6修102期博後日文）共編『レポート論文のStart Line―書ける自分を作る』おうふう刊　1575円

◎**林田孝和**（昭39卒・72期文、昭41修・74期博前日文、昭44修・77期博後日文、国学院大学栃木短期大学教授）編『源氏物語巻別古注釈集成　第34帖若菜上』おうふう刊　42000円

◎**新國稔秧**（昭40卒・73期哲）著『これならわかるソクラテスの言葉』せせらぎ出版刊　1260円

◎**千家和比古**（昭48卒・81期史、昭50修・83期修日史、昭60修・93期専、出雲大社権宮司）・**松本岩雄**（昭50卒・83期史、島根県立古代出雲歴史博物館専門学芸員）編『出雲大社　日本の神祭りの源流』　旅風舎刊　1995円

◎**井上順孝**（本学教授）編著『要点解説　90分でわかる！　ビジネスマンのための「世界の宗教」超入門』東洋経済新報社刊　1260円

◎**上野誠**（昭59卒・92期文、昭61修・94期博前文、平2修・98期博後文・奈良大学教授）著『遣唐使　阿倍仲麻呂の夢』（角川選書530）角川学芸出版刊　1890円

◎**鍛代敏雄**（昭57卒・90期史、昭59修・92期博前日史、昭63修・96期博後日史、国学院大学栃木短期大学教授）著『中世日本の勝者と敗者』（敗者の日本史11）吉川弘文館刊　2730円

◎**矢部健太郎**（本学准教授）著『関ヶ原合戦と石田三成』（敗者の日本史12）吉川弘文館刊　2730円

◎**白井重範**（本学准教授）著『「作家」茅盾論―二十世紀中国小説の世界認識』汲古書院刊　8400円

国学院幼稚園 保護者見学会を開催

横浜市青葉区にある国学院幼稚園の在園児保護者らが1月24日、本学渋谷キャンパスを訪れ、大学見学を行った。午前10時30分ごろに到着した61人の保護者と未就園児、そして教員たちは、まず博物館を複数グループに分かれて見学。学芸員の解説に熱心に耳を傾けながら館内で1時間ほどを過ごした。

その後、希望者による神殿への参拝をはさんで、昼食会場となった若木タワー最上階の有栖川宮記念ホールへ移動した。18階からの眺望を楽しみながらの昼食時には、大学マスコットキャラクターこくぴょんが登場。多くの子どもたちが周りに集まるなど和やかなひと時となった＝写真。

初めての実施となった今回のキャンパス見学会について、保護者らは整備されたキャンパスや学問に熱心に取り組む学芸員の姿に感動したといった感想を口々に述べていた。

最後に参加者は、お土産として大学オリジナルグッズを受け取り、記念撮影を済ませ解散したが、その後も、図書館見学をはじめ本学が準備したサービスに参加するなど、キャンパスでの時間をそれぞれ楽しんでいた。

私の就活体験談㊦　内定を勝ち取れ！就活必勝法

今年度の就職活動で内定を獲得した４年生が、自身の就職活動について語る「活動体験談」。先月号に引き続き、今月号では、教員採用試験と図書館司書に合格した４年生にスポットをあて紹介する。就職活動での苦労や選考のポイントなど、就職活動がいよいよ本番となった３年生は、ぜひ参考にしていただきたい。

（総合企画部広報課）

〈教職〉横浜市高等学校教員
夢を目指して
日本文学科　梅澤　碧

私が教師になりたいと思ったのは中学２年生の頃で、二つの出来事がきっかけとなりました。一つは国語の授業で、古典作品のもつリズム感や古典独特の表現に面白さを感じたことです。高校でさらに意欲的に古典に取り組み、そのことが大学の学びにつながりました。大学では日本文学を専攻し、特に興味があった『源氏物語』を研究しています。そして二つめのきっかけは体育祭です。私は運動が得意ではありませんでした。しかし、担当の先生が、絵や書道が得意な私に、体育祭の垂幕やパンフレットを任せてくださったことで、自分の役割を見出すことができ、その後の学校生活に自信がもてるようになりました。このようなことから、生徒を成長させ将来へ導く教師の仕事に魅力を感じるようになりました。そして、横浜市の教員である叔父からさまざまな経験を聞き、私も横浜市で生徒の育成に努めたいと考えました。

大学３年次から、大学の教職支援企画である「教職総合ゼミ」に所属し、教職の基礎を学びました。講習には全て参加し、教材研究の方法などの指導を受け研さんに励みました。小論文では自分の考えがまとまらず、書くこと自体がつらくなりましたが、先生のご指導のもと自分の教育観を軸とした小論文を完成することができました。また、二次試験対策では、「自分本位の指導案の構成で、学習指導要領に則していない。生徒の学習活動がない」との指摘を受け、何度も書き直して模擬授業を行いました。厳しいご指導の中で、試験合格の目標を越えて、生徒を育てる授業を考えなくてはならないことを学びました。先生方は授業作りの基本を教えてくださるとともに、私の生徒に寄り添った声掛けや表現力を伸ばしてくださり、そのことで自信がつき、目的が明確で私らしい授業ができるようになっていきました。また、大学２年次から始めた家庭教師先では特別支援指導に触れ、母校でスクールボランティアの経験も積みました。さらに３年次から横浜市が主催する「よこはま教師塾アイ・カレッジ」で実践力を磨きました。

長い間一つの夢を追い続ける中で、逃げ出したい時もありました。その困難を乗り越えることができたのは、教職センターの方々からの励ましと先生方の支えがあったからです。講習終了から二次試験までの間が最もつらい期間でしたが、指導案は「○○先生ならこのように指導なさるだろうな」と想像して講習中の教えから作り上げました。合格後も教職ゼミの一環として、都立高校参観演習で授業を拝見し、同じく教職を目指して支援講習会で学ぶ３年生への報告会を行うことで、春から未来ある生徒の育成を担う立場になる自覚を改めて感じ、覚悟を強くしました。

これからも学ぶべきことは多くありますが、多くの先生方に成長させていただき、教職を目指す道のりでの素晴らしい出会いに感謝しています。

〈教職〉東京都幼稚園教諭
積極的の行動し、いつでも笑顔で元気よく
初等教育学科　岩本　亜也理

私は、幼い頃から近所の子どもやいとこの面倒を見ては、漠然と〝先生〟という職種に憧れを抱いていました。「幼稚園教諭になりたい」と具体的に目標を定めたのは、大学で幼児教育を学び、実際に子どもたちと触れ合うようになってからです。

大学時代は、とにかくボランティア経験を積みました。何よりも体験が大事だと考えたからです。入学当初は小学校教諭になりたいのか、それとも幼稚園教諭になりたいのか、はっきりしていませんでしたが、机上の勉学だけでは夢は定まらないと考え、実習校になる小学校でボランティアを始めました。そして幼稚園実習が初等教育学科の学生は対象でないと言われていたので、地元の幼稚園に自らお願いをし、授業の合間や長期休暇を使っては、幼稚園、小学校でボランティアをしていました。

また、幼保一体化の動きがあることを知り、保育士の資格も必要であると考え、保育士試験の勉強を始めました。その時初めて、「勉強が楽しい」と感じたのを今でも鮮明に覚えています。勉強嫌いの私が唯一「保育」の勉強だけは楽しいと思ったのです。しかし、保育についての知識が全くない私にとって、試験勉強だけでは現場で役に立たないと考え、保育所にも自らお願いをし、２年生の夏、ボランティアとして２週間保育園実習をさせていただきました。

大学３年生になって、大学でも保育の授業が増えましたが、このボランティア経験は大きな財産となりました。実際に現場を知ることで、机上の勉学も一層深まったと思います。初等教育学科の学生は小学校教育の学びが主であるため、保育の学びはとても少ないものになってしまいますので、自ら積極的にボランティアをすることをお勧めします。

公立幼稚園の採用試験で大変だったことは、同じように公立幼稚園の採用試験を受験する仲間がいなかったことです。また、公立幼稚園を受けた先輩もいなかったので、採用試験の情報がほとんど手に入りませんでした。この勉強方法は正しいのか、分からないまま勉強を続け、倍率の高さを認識する度に諦めたい気持ちと戦っていました。一番つらかった時期は、４年生の６月、幼稚園実習の期間です。実習を終えた週には地元の公立幼稚園の採用試験が、その一週間後には東京都の採用試験が控えていました。精神的にも、体力的にもつらい思いをしました。試験勉強は３年生の春ごろに始めていましたが、実習を挟むことを視野に入れ、もっと早めに準備をしておくと良かったと思います。実技試験でも十分な準備ができず、不安だらけでした。本番の模擬保育は時間内に終わらず、ピアノ演奏も最後まで成功しませんでした。しかし、笑顔だけは忘れずに、明るく元気よく行いました。もしかしたら、それが一番大事なのかもしれません。

私は、これから公立幼稚園を希望する本学の学生が増えることを心から願っています。協力し合い、励まし合う仲間がいることはとても心強いことです。倍率は関係ありません。自分を信じて、とにかく明るく元気よく、素敵な笑顔で頑張ってください。

〈教職〉東京都小学校教員
クラスの雰囲気作りができる教員を目指す
初等教育学科　笠原　沙紀

「大きくなったら私は学校の先生になりたい」。小学生の頃、作文にそう書いたことを今でも鮮明に覚えています。それ以来その夢は変わることなく、多くの人の支えで、今年その夢を実現することができました。とにかく子どもの頃から学校が大好きで、勉強は特別できる方ではありませんでしたが、友だちと無邪気に遊んだり先生の面白い話を聞いたりする毎日が楽しくて仕方がありませんでした。子どもながらに「大人になってもずっと学校に居たい！」と思ったのが教員を目指した最初のきっかけです。

教育学を本格的に学ぶため、北海道にある本学の短期大学部へ進学しました。２年次に行った教育実習では高学年の学級に入りました。指導教諭は怒ると怖い先生で、子どもたちもよく叱られていましたが、それでも休み時間になると先生の周りはいつも子どもたちでいっぱいでした。それは実習生の自分では到底築けない、子どもたちと学級担任との信頼関係の表れでした。その光景を見たときに、ふと自分の小学生時代を思い出し、あの時学校が大好きだと思えたのは、当時の担任の先生がそう思えるような学級経営をしてくれ、目には見えずとも私たちと先生の間に信頼関係があったからだと気づきました。実習中は授業もうまくいかず、思春期の高学年の子どもたちとの関わりに頭を抱えるなど苦労もありましたが、そのことに気づけたことが一番の学びでした。

その翌年、初等教育学科に３年次編入しました。大学ではゼミに入ることでさまざまな小学校の研究授業を参観させていただいたり、学校ボランティアとして１年間を通して常に学校現場と関わらせていただいたりしました。ところが、こうして教育現場に関われば関わるほど夢への憧れが強まる半面、採用試験の模試の結果は下がる一方で４年生の前期は本当に悩みました。時には友だちや先生の前で涙を流したこともあります。しかしあの時プライドを捨て、人前で自分の素をさらけ出せたことがその後の合格につながったと今では思っています。言葉に出さずとも頑張っていればそれを分かってくれる人は必ずいる。本学に編入してからはそのことを強く感じられるような人たちと出会うことができました。

私が子どものころからの夢を諦めることなく実現することができたのは、応援してくださった家族や先生方、励まし合いながら一緒に頑張った友人の存在が一番だと思っています。そう思えた大学時代の経験を活かして、友だちや家族を大切にできる思いやりのある子ども、素直な感謝の気持ちを大切にできる子どもを私は育てていきたいです。これから夢へと挑戦する後輩のみなさん、誰にも負けない強い意志と周りの人の存在を大切にしてください。気づかないところで実は応援してくれている人、助けてくれる人が必ずいるはずです。それは自分の想像以上に努力の原動力になりますから。

〈司書〉国立大学法人筑波大学図書館
多くの支えでつかんだ夢
日本文学科　竹内　夏奈子

「大きくなったら私は学校の先生になりたい」。小学生の頃、作文にそう書いたことを今でも鮮明に覚えています。それ以来その夢は変わることなく、多くの人の支えで、今年その夢を実現することができました。とにかく子どもの頃から学校が大好きで、勉強は特別できる方ではありませんでしたが、友だちと無邪気に遊んだり先生の面白い話を聞いたりする毎日が楽しくて仕方がありませんでした。子どもながらに「大人になってもずっと学校に居たい！」と思ったのが教員を目指した最初のきっかけです。

教育学を本格的に学ぶため、北海道にある本学の短期大学部へ進学しました。２年次に行った教育実習では高学年の学級に入りました。指導教諭は怒ると怖い先生で、子どもたちもよく叱られていましたが、それでも休み時間になると先生の周りはいつも子どもたちでいっぱいでした。それは実習生の自分では到底築けない、子どもたちと学級担任との信頼関係の表れでした。その光景を見たときに、ふと自分の小学生時代を思い出し、あの時学校が大好きだと思えたのは、当時の担任の先生がそう思えるような学級経営をしてくれ、目には見えずとも私たちと先生の間に信頼関係があったからだと気づきました。実習中は授業もうまくいかず、思春期の高学年の子どもたちとの関わりに頭を抱えるなど苦労もありましたが、そのことに気づけたことが一番の学びでした。

その翌年、初等教育学科に３年次編入しました。大学ではゼミに入ることでさまざまな小学校の研究授業を参観させていただいたり、学校ボランティアとして１年間を通して常に学校現場と関わらせていただいたりしました。ところが、こうして教育現場に関われば関わるほど夢への憧れが強まる半面、採用試験の模試の結果は下がる一方で４年生の前期は本当に悩みました。時には友だちや先生の前で涙を流したこともあります。しかしあの時プライドを捨て、人前で自分の素をさらけ出せたことがその後の合格につながったと今では思っています。言葉に出さずとも頑張っていればそれを分かってくれる人は必ずいる。本学に編入してからはそのことを強く感じられるような人たちと出会うことができました。

私が子どものころからの夢を諦めることなく実現することができたのは、応援してくださった家族や先生方、励まし合いながら一緒に頑張った友人の存在が一番だと思っています。そう思えた大学時代の経験を活かして、友だちや家族を大切にできる思いやりのある子ども、素直な感謝の気持ちを大切にできる子どもを私は育てていきたいです。これから夢へと挑戦する後輩のみなさん、誰にも負けない強い意志と周りの人の存在を大切にしてください。気づかないところで実は応援してくれている人、助けてくれる人が必ずいるはずです。それは自分の想像以上に努力の原動力になりますから。

私が図書館司書を目指すきっかけとなったのは、中学時代の職場体験でした。地元の小さな図書館で職場体験をすることになり、そこで司書として個人のニーズに合った資料を提供し、地域の人々の学習や研究を支えていくことへのやりがいと楽しさを感じることができました。

また、大学での図書館司書課程の授業を通して、今後はインターネットなどの膨大な情報から、いかに人と資料を結び付けていくかが大事だと考えていたため、資料のデジタル化に対する取り組み、そして学生への学習・研究が充実している筑波大学図書館に魅力を感じ、志望するようになりました。

私が試験対策を始めたのは、３年生の５月ごろで、公務員試験を対象とした通信講座と市販の問題集で試験勉強をしました。予備校に通っても講義を受けるだけで満足してしまい、結局身につかないのではないかと考えたからです。周りに公務員志望の仲間がおらず、試験勉強のスケジューリングも自分で進める孤独な環境でしたが、かえって「自分でやらなければ落ちる」という危機感につながり、良い刺激になっていたと思います。もちろん私一人だけの力では限度があるので、勉強場所は家や大学の図書館など、わざと人目のつく場所を選んで勉強せざるを得ない状況を作っていました。一日分の勉強量を書いた紙をリビングの壁に貼っていたので、怠けそうな時には家族がハッパをかけてくれました。また、一人で勉強していると息が詰まってしまうので、友人との他愛もない会話や授業に出席して頭を切り替えることが、良い息抜きになっていました。

ただ、私の場合は筆記試験の勉強にばかり集中してしまい、志望先の調査がおろそかになっていました。本格的に下調べを始めたのは試験要項が出てからで、慌てて志望先の説明会に参加して情報収集に努めました。もう少し早く調べておけば余裕を持って面接の準備もできたのに、と後悔しました。第一関門は筆記試験に合格することですが、その後に面接が控えていることも忘れずに試験対策を行うことが大事だと思います。

面接対策では、大学主催の対策講座や、キャリアサポート課で模擬面接を受け、場数を踏みました。初めは緊張して自分をアピールできませんでしたが、何度か行ううちに面接特有の雰囲気に慣れ、笑顔で自分の考えが話せるようになりました。また模擬面接を行ったことで、アピールポイントもはっきりして本番へより入念な準備ができたと思います。おかげでなんとか筑波大学から内定をいただくことができました。

振り返ってみると、大学の先生、キャリアサポート課の職員、友人、先輩後輩、家族など多くの人の支えがあったからこそ、図書館司書になるという夢を実現することができたと実感しています。公務員志望の３年生は、そろそろ試験対策の大詰めに入り、焦りや不安が出てくる頃かと思います。その時は、周りの人を頼って遠慮なく相談してみてください。そして、今まで積み重ねてきた努力を信じて本番に臨んでください。心から応援しています。

経済学会懸賞論文　優秀賞は3人に

国学院大学経済学会の平成25年度懸賞論文の応募総数は31本（昨年度は32本）で、審査の結果、優秀賞３本、奨励賞６本、佳作８本、努力賞４本が決定した。なお、最優秀賞と青木賞の該当論文はなかった。

合評会（表彰式）は、１月20日正午から渋谷キャンパス若木タワー０５０９演習室で、茅野信行経済学部教授が司会を務め行われた。

最初に、同会会長の尾近裕幸経済学部長・教授があいさつし、「問題意識に形を与えて広くコミュニケーションを図るのが論文。思考を伝える力を示してくれたことをうれしく思う」と述べた。続いて本企画に協賛している、同学部の卒業生組織である国学院大学院友経済会の大塚勤副会長（昭41卒・74期政経）があいさつの後、各賞受賞者に賞状と副賞が尾近会長から贈呈された。また、優秀賞の受賞者には「院友経済会賞」（賞状・賞金）が、大塚院友経済会副会長から贈呈された。

最後に同懸賞論文担当の木下順経済学部教授が講評を述べて、会は30分ほどで終了した。

各賞受賞者の氏名・所属と題目は一覧のとおり（敬称略）。

尾近会長（左）から賞状を受け取る入賞者

◆ 平成25年度　経済学会懸賞論文審査結果 ◆

審査結果	氏　名	所　属	テーマ
優秀賞	千葉　彩加	経営４	オリエンタルランドの財務諸表に表れる特徴 ～設備投資とロイヤルティーを中心として～
	佐藤　眞梨	経ネ４	鳥獣被害対策から考える地域づくり ～岐阜、山梨の２地域の調査からの考察～
	新田　瑞穂	経営４	発展途上国における教育と経済開発
奨励賞	原島　梓	経営４	研究開発費が企業に与える影響 ―会計基準ごとの差異の検討―
	相川　直気	経　４	MBO における問題点と株主権利の保護
	岩井　幹典	経ネ４	軽井沢彫産地の変容過程 ―労働力、事業所の淘汰、製品開発に注目して―
	小出　奈緒	経営４	秋田県の公益法人について ～農業公社を中心として～
	鈴木　大地	経ネ４	離島へのサーファー移住の現状と課題 ―八丈島の事例―
	菅井　仁	経　４	日中韓自由貿易協定の可能性
佳作	戸田麻衣子	経ネ４	川越菓子屋横丁の経営戦略
	浅井　悠佑	経　４	資産除去債務会計の重要性と問題点 ―電力会社を例として―
	安部　千明	経ネ４	メディカルツーリズムで地域医療を守る
	安海　康佑	経営４	日本の自動車会社の環境会計分析
	宮本　芳樹	経ネ４	自己啓発書ブームと新自由主義の関わり
	安田　翔	経営４	集落地域の人材活用につながる ローカルエネルギー ～小水力発電による中山間地域の発展の可能性～
	中村　利華	経　４	金融負債の公正価値評価がもたらす問題と影響
	三浦　哲	経　４	粉飾決算から見る連結会計基準と 連結外しについての考察
努力賞	大河原直人	経ネ３	自然エネルギーの使用による次世代の生活スタイル～消費側からの取り組み～
	西村　諒	経　４	M＆Aによるのれんの償却と減損が与える影響
	木元　智美	経営４	バイオマス系資源の循環利用と今後の展望 海外と日本国内の例を比較検討し、今後の可能性を考える
	矢野口瑞紀	経営４	ニューツーリズムによる地域振興 ―コンテンツ・ツーリズムの可能性―

※最優秀賞・青木賞は該当論文なし

法学会懸賞論文

国学院大学法学会は、平成25年度懸賞論文を１月８日締め切りで募集したところ、法律系27本、政治系27本の合計54本（昨年度は50本）の応募があり、厳正な審査の結果、最優秀賞２本、佳作４本が決定した。受賞者の氏名、学年および題目は、一覧のとおり（敬称略）。なお、優秀賞の該当論文はなかった。

表彰式は２月10日午前11時から渋谷キャンパス若木タワー法学部長室で行われ、宮内靖彦国学院大学法学会理事長・法学部長・教授から受賞者に表彰状と副賞が授与された。

企画担当理事の門広乃里子教授から、「入賞作品は、問題設定が評価でき、現状分析も既存の説や資料の読み込みがなされ、論文作成の基礎ができている」との総評があった。また、受賞者から論文への意気込みや受賞の感想、将来の抱負などが語られた。その後、審査を務めた宮下大志・甘利航司両准教授から各論文への講評があり、会は終了した。

入賞者の喜びの声は法学部ｆａｃｅｂｏｏｋで公開され、入賞論文は、『法学会入選論文集』としてまとめられる。

表彰式後、晴れやかな表情の入賞者たち

最優秀賞に大角君、羽中田君

◆ 平成25年度　法学会懸賞論文審査結果 ◆

審査結果	氏　名	学年	題　目
最優秀賞	大角　洋平	4	未決拘禁制度を規制する諸原理とその適用について
	羽中田　卓	3	自由民主党の党則改正と危機克服
佳作	金子あんず	4	事例から見る55条移送における保護処分相当性の判断の検討
	髙田　彩也	3	通信傍受における立会人の必要性
	柴崎　進 赤羽　政哉	3	規制行政における理想と現実の隔たり ―屋外広告物行政を題材として―
	宗石　真実 椎名　大 池上　千尋	2	
	山口　順平	2	民主党の政権崩壊の原因 ～党の組織運営と内部構造～

※優秀賞は該当論文なし

平成26年度教員採用試験150人超が合格

人間開発学部とたまプラーザ事務課は全国17都府県と６政令指定都市の教育委員会を訪問し、平成26年度教員採用試験における地域別の本学合格者の調査を実施。その結果、延べ１５３人（既卒者を含む）が小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に合格していることが判明した。

近年、難化傾向にあるといわれている教員採用試験において１５０人を超える合格者数は決して少なくなく、次年度以降の同試験に弾みがつきそうだ。

たまプラーザキャンパスでは、１月29日に教員採用試験受験地別懇談会が行われ、教員採用試験に合格した人間開発学部４年生が教職志望の後輩にアドバイスを行った。

また、２月７日には渋谷キャンパスで教員採用試験春期集中講習会が行われた。同講習会は、教職を目指す学生を対象に小論文や専門教科の試験対策、採用試験合格者による模擬授業の実演などを集中的に講義するもので、２月19日（水）まで行われる予定。次年度の採用試験対策についてもさまざまな取り組みが行われている。

本学では平成21年、たまプラーザキャンパスに人間開発学部が誕生、小学校教諭と中学・高等学校の保健体育教諭の養成が始まった。また、平成24年には渋谷キャンパスに教職センターが設置され、今まで複数の部署にまたがっていた教職に関わる業務を一元化。学修と就業を包括的に支援する専門の機関となることで、より戦略的な指導が行えるようになった。

人間開発学部とたまプラーザ事務課では、今後もその他の地域の教育委員会に引き続き調査を実施し、調査結果は順次公開する予定だ。

1月29日に実施された教員採用試験受験地別懇談会

２月７日から始まった教員採用試験春期集中講習会

インフォダイジェスト

イベント

平成26年度　大学院・法科大学院入学式
４／１（火）午後１時から渋谷キャンパス学術メディアセンター常磐松ホールで挙行。

平成26年度　学部・専攻科・別科入学式
４／２（水）グランドプリンスホテル新高輪「飛天」で、文学部・神道文化学部・人間開発学部・専攻科・別科は午前10時から、経済学部・法学部は午後１時30分から挙行

神道文化学部／「まつりとコミュニティを考えるつどい」実行委員会
『雄勝～法印神楽の復興』上映とボランティア活動報告～まつりとコミュニティを考えるつどい～
３／24（月）午後５時30分から午後７時30分に１２０周年記念１号館１１０１教室で開催。今年で３度目の「震災支援体験報告会」。ドキュメンタリー映画『雄勝～法印神楽の復興』を上映し、祭りや神楽が、雄勝に住む人々にとって震災復興の後押しとなっていることを紹介。申し込み不要、参加費無料。公益社団法人日本ユネスコ協会連盟協力。

事務局からのお知らせ

教務課・学生生活課・たまプラーザ事務課
次年度４月のオリエンテーション
在学生対象の次年度オリエンテーションは、学部・学科・学年・教職・資格課程ごとに４／１（火）から実施。４／１（火）～４／５（土）の期間中、在籍確認シール交付、キャリアガイダンス、履修相談などが行われる。各行事の日程・開催場所は、大学ホームページおよび学内掲示やＫ－ＳＭＡＰＹなどで随時確認を。

教務課
次年度前期授業開始・履修登録
授業開始は４／７（月）。履修登録は、４／１（火）～４／９（水）を予定。本学ホームページ・時間割表で確認を。

保健室
学生定期健康診断必ず受診を
健康診断は、人間開発学部生（全学年）は、４／１（火）にたまプラーザキャンパスで、同学部以外は渋谷キャンパスで、１年生は４／３（木）・４（金）、２～４年生は４／７（月）～４／12（土）に行う。健康診断は、大学という集団生活の場で、結核など感染症の集団感染やそれ以外の重大な病気の早期発見・予防の点からも重要となるので必ず受診を。

教務課
次年度科目等履修生募集要項を配付
平成26年度国学院大学科目等履修生の出願要項（無料）を３／１（土）から窓口で配付する。出願期間は、３／24（月）～３／26（水）を予定。出願の概略（「教養目的」か「資格取得目的」かにより内容が異なる）および「講義概要（シラバス）」は、本学ホームページを参照（３月下旬公開予定）。出願要項の郵送希望者は、教務課（☎０３・５４６６・０３７８）まで問い合わせること。

その他のイベント等は、本学ホームページでご確認ください。

陸上競技部

あつぎ駅伝

大会新記録で優勝

第60回あつぎ駅伝競走大会（厚木市・厚木市教育委員会主催）が、1月26日に同市内の荻野運動公園競技場を発着点に行われ、大学の部に出場した本学陸上競技部Aチーム［鈴木涼太（健体1）、池田将典（経3）、沖守怜（健体3）、中嶋大（経営1）、山根誠弘（史2）、大下稔樹（経ネ2）］が2時間5分11秒の大会新記録で優勝した。

大会は、地区対抗・女子・高校・大学・一般の各ブロックで行われ、高校・大学・一般は42・195キロを6区間で競った。大学の部には、今年の箱根駅伝に出場した6大学からを含む8大学12チームがエントリー。各校とも箱根駅伝経験者が名前を連ねる中、本学からは、2チームが出場した。Aチームには沖守君と大下君の2人が今年の箱根駅伝経験者として名を連ねた。

レースは、2区の池田君が区間賞の好走でトップに立つと、そのまま逃げ切り、最後は大下君がガッツポーズでゴールテープを切った。

区間2位の3区・沖守君（岩崎桂治氏（院友）提供）

本学の優勝は55回大会以来。総合17位に終わった箱根駅伝から3週間あまり。同大会総合2位の駒沢大学をはじめ箱根駅伝の常連校を抑えての優勝は、同部の飛躍にとって大きな弾みとなった。

また、同部Bチーム［川本博大（神文1）、小園友大（法3）、坂本航平（法2）、岡部令（法2）、郷貴徳（法2）、細森大輔（法1）］は、2時間7分54秒で8位だった。

このほか、地区対抗の部（6区間、21・0975キロ）では、同部の長距離女子選手・橋本萌さん（健体3）が小鮎Aチームで2区を走り、区間賞を獲得。同チームの優勝に貢献した。

陸上競技部OB

駅伝・マラソンで力走

本学陸上競技部OBが、駅伝大会やマラソン大会に出場し、結果を出している。

ニューイヤー駅伝

OB3選手が出場

各地区予選を勝ち抜いた37の実業団チームにより争われる第58回全日本実業団対抗駅伝競走大会（主催・日本実業団陸上競技連合・通称ニューイヤー駅伝）が1月1日の午前9時10分から群馬県庁前（前橋市）をスタート・ゴールとする7区間100キロのコースで行われ、本学陸上競技部OBの3選手が出場した。

1区には富士通の山口祥太選手（平20卒・116期経）と八千代工業の上條記男選手（平18卒・114期史）が出場。山口選手は、区間8位、チームの最終順位は6位だった。上條選手は、区間30位、チームの最終順位は34位だった。

アンカー区間の7区には、プレス工業の中山翔平選手（平25卒・121期日文）が出場、順位を3つ押し上げ、区間22位。チームの最終順位は26位だった。

その他、富士通の仁科徳将選手（平23卒・119期神文）と荻野皓平選手（平成24卒・120期法）、JFEスチールの山本泰之選手（平16卒・112期日文）、愛三工業の舩越大輔選手（平19卒・115期法）、セキノ興産の青木信夫選手（平24卒・120期日文）もエントリーされていたが、当日の出場はなかった。

防府読売

荻野選手に濱村賞

昨年12月15日に山口県防府市で行われた第44回防府読売マラソン大会（主催・中国陸上競技協会、防府市、読売新聞社ほか）では、富士通の荻野皓平選手（平24卒・120期法）が、マラソン初挑戦ながら、2時間13分12秒のタイムで3位に入り、新人の優秀選手に贈られる濱村賞を受賞した。また同大会には、トヨタ自動車の三島慎吾選手（平19卒・115期経）も出場し、2時間25分9秒で11位だった。

ユニバーシアード大会に

大塚氏が出場

第26回ユニバーシアード冬季競技大会が、イタリア・トレンティーノなどで昨年12月11日から21日まで開かれ、5競技78種目が実施された。

本学からは、事務局職員でスキー部コーチの大塚裕華氏（平25卒・121期健体）が、ノルディックスキー距離の5種目に出場。女子15キロリレーでは、日本の8位入賞に貢献した。

個人では、女子15キロクラシカルで28位、同10キロパシュートで37位、同5キロフリーで50位などだった。

学生団体・個人の成績

◎卓球部＝天皇杯・皇后杯 平成25年度全日本卓球選手権大会（公益財団法人日本卓球協会主催）が1月14日から19日まで東京体育館（渋谷区）で行われ、同部部員8人が出場した。混合ダブルスの部では、小森文俊（初教4）・伊藤瑞花（専修大）ペア（神奈川）が3回戦敗退、蛯原大貴（経ネ2）・金江夏美（青山学院大）ペア（同）が1回戦敗退、伊藤健（経ネ3）・渡辺由佳（早稲田大）ペア（静岡）が2回戦敗退、町田幸希（神文2）・須藤洸（専修大）ペア（石川）が3回戦敗退、小山さき（初教3）・伊積健太（岡谷市）ペア（長野）が2回戦敗退。男子ダブルスでは、新山勇気（日文1）・小川正悟（龍谷大）ペア（香川）が1回敗退。女子ダブルスでは、住吉由起子（日文4）・住吉亜紗未（新川高）ペア（富山）が1回戦敗退、小山さき（初教3）・小山みき（中央大）ペア（長野）が1回戦敗退、芦原真由（経2）・口田実奈（中央大）ペア（福井）が2回戦敗退だった。

◎ドリル競技部SEALS＝第11回全日本学生チアダンス選手権大会決勝大会（日本チアダンス協会主催）が、昨年12月7日から8日まで東京体育館で行われ、POM部門大学生編成に出場した同部は、第5位に入った。

◎相撲同好会＝第91回全国学生相撲選手権大会（日本学生相撲連盟ほか主催）が、昨年11月2日から3日まで堺市大浜公園相撲場で行われ、団体戦は、Cリーグ3回戦敗退。個人戦は柳井裕行君（哲4）が1回戦敗退、間中晋太郎君（外文3）は2回戦敗退だった。

◎スポーツチャンバラ武刀会＝第5回関東大学リーグ戦大会（日本スポーツチャンバラ協会主催）が国士舘大学で行われ、同部は男子団体戦で優勝した。

留学先の学生と笑顔でテレビ会議

春季短期語学留学を前に

2月16日（日）から3月18日（火）まで、米国・セントマイケルズ大学で実施される春期短期語学留学。今年度は24人の学生が参加することとなった。

2月8日には、留学先の同大学との間でインターネット電話サービス「Skype（スカイプ）」を利用したテレビ会議を実施した。当日は留学予定の学生10人が集まり、留学期間中のプログラムでパートナーを組むことになる現地学生と自己紹介を行った。

カードを掲げ自己紹介する学生

午前9時30分から始まった会議では、回線が接続され映像が映し出されると教室には歓声が上がった。その後、自身で作成した名前入りのカードを掲げ、自分の趣味やニックネームなどをそれぞれ披露した。時折音声が乱れお互いが何度も聞きなおす場面もあったが、現地で再会することを約束し、午前10時30分には無事に終了した。

国際交流送別会・学生サポートスタッフ慰労会を開催

テーブル毎に分かれ懇談する外国人留学生と日本人学生

昨年4月と9月に協定校から本学に留学した6人の交換留学生が、留学期間終了に伴い3月に帰国することとなった。1月27日には渋谷キャンパス若木タワー有栖川宮記念ホールで送別会が開かれ、期間中、留学生をサポートしてきたK—STEPアシスタントや彼らと親交を深めてきた国際活動サークル「cha×cha」所属の学生が集まり、別れを惜しんだ。

また、今回は、日頃から本学業務をさまざまな形で支えている学生サポートスタッフ9団体（スチューデントアシスタント・コンピュータアシスタント・ノートテイカー・学生アドバイザー・学生就職サポーター・K—STEPアシスタント・エルダサポーター・人間開発学部学生企画委員）の慰労会も併せて開催された。

冒頭、秦信行入学担当理事・経済学部教授があいさつに立ち、「普段は交わることがない留学生や学生サポートスタッフの諸団体であるが、この場を介して親交を深め、さらなる本学の発展に寄与してほしい」と述べ、昨年度から2回目となる共同開催について主旨説明をした。

続いて、大久保佳子国際交流委員長・文学部教授の発声で乾杯し懇談へと移った。会の途中では学生サポートスタッフの活動紹介や交流を深めるためのゲームなどが行われた。帰国する留学生のあいさつでは、壇上に立つ留学生に日本人学生がエールを送る一幕もあり、半年間の本学滞在中に育まれた友情の深さが伺えた。

また、今年3月に退職する横山貴前国際交流委員長・法学部教授もあいさつし、「私は社会人になってから本格的に語学の勉強を始めた。皆さんは学生時代から語学習得に励み、外国の人と交流を深め、世界に羽ばたいてほしい」と語った。

最後は全員で校歌斉唱、城所俊哉学生事務部長から閉会の辞が述べられお開きとなった。

with

山手線一周徒歩ツアーに参加して

2月9日、本学の環境系サークル「森木会」が主催する山手線一周徒歩ツアーが開催されました。「森木会」は主に岩手県紫波町で間伐体験ツアーを毎年夏に行っており、この山手線一周徒歩ツアーは10年ほど前からほぼ毎年開催しています。

今回は、当初8日の午後6時に渋谷を出発する予定でしたが、大雪のため延期に。天候が回復した翌9日、当初の予定の半分ほどの距離にあたる上野～田端～池袋～渋谷間（約17キロ）を歩きました。

午前10時、上野駅に卒業生や他大学の学生を含む参加者が集合し、自己紹介をしてから渋谷に向けて出発。参加者の中には、以前にもこのイベントに参加した人や間伐体験ツアーの参加者もいて、久しぶりの再会を喜ぶ姿もありました。

私は、今回初めてのツアー参加で、出発前は参加することに心躍る気持ちと、長距離を歩ききることができるかどうかという不安がありました。しかし、森木会のメンバーや他の参加者との会話が弾み、最後まで笑顔を絶やすことなく歩くことができました。途中に立ち寄る山手線各駅では、全員で毎回恒例の記念撮影。駅名と、そのときにいる参加者全員の名前を書いたスケッチブックを持って撮影し、一駅ごとに踏破の記録を残しました。

休憩などをはさみ、午後7時30分ごろには渋谷駅に到着。電車では30分ほどの道のりを、約6時間をかけた旅でしたが、最後まで参加者が疲れた表情を見せることはほとんど無く、笑顔でゴールしました。約半周はあっという間で、ゴール後も興奮が覚めやらない状態でした。今回は悪天候のため山手線を一周することはできませんでしたが、参加者同士が交流を深めることを楽しみながら、全員が笑顔でゴールできたということが何より記憶に残っています。

全員笑顔で渋谷にゴール

山手線一周ツアーは、毎年開催しています。過去には、成人を向かえて通過儀礼として参加した人もいるとか。今回は約半周でしたが、来年以降も参加し山手線一周にチャレンジしてみたいと感じました。

落合遥香（法1）